

ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える

核兵器廃絶国際署名のご協力をお願い

日ごろは何かとお世話になりありがとうございます。
さて、今年4月から5月にニューヨーク国連本部で第10回NPT再検討会議2020が開催されます。被爆75周年の節目の年、国連創立75周年の節目の年に当たります。これまで広島、長崎で開催されてきた原水爆禁止世界大会も4月24から26日ニューヨークで同時開催となりました。

「人類は存亡にかかる2つの脅威、増大する核戦争の危険と、気候の崩壊とに直面しています。これらの脅威は人間が生んだものでありただ多数の人々の行動によってのみ押し戻すことができます。」

被爆国日本政府がこれに賛同していないことは大変残念です。

年末にはローマ上皇も来日して世界に背中に子供を背負った少年の写真を紹介し、核兵器の廃絶を訴えられました。

被爆者署名は世界中の言葉に訳され、世界で数億の署名を集めようと取り組まれています。

奈良県では全自治体が平和首長会議に参加し、非核平和宣言自治体になっています。知事も署名に賛同され県議会でも2017年6月全会一致で「核兵器廃絶を求める決議」を行い国連総会に送付しました。2017年には国連122か国の賛同で核兵器禁止条約が成立し、50か国が批准すればこの法律が実行され、すでに34か国が批准し、スピードが速まっています。2020年の発行が期待されている禁止条約は希望の光です。

被爆者の皆さんが高齢化する中で被爆者の経験を国際的な注目の中心に据える最後にして最大の機会の一つになるでしょう。

ぜひ多くの方々の署名を届けたいと思います。あなたのそしてあなたの周りの方々への署名のご協力をお願いするものです。

署名は3月末までに集めていただき同封の封筒で返信いただきますようよろしく願いいたします。

2020年 1月 吉日

奈良県議会議員 今井光子

広陵町議会議員 八尾春雄

広陵町議会議員 山田美津代